斎藤正直先生との旅

メタデータ	言語: jpn 出版者: 明治大学大学史料委員会 公開日: 2011-04-11 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 高田, 勇 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10291/10543

●人物点描

斎藤正直先生との旅

高田　勇

永い明治大学の歴史のなかでも、斎藤正直先生ほど生涯をかけて本学の今日の隆盛のために悪戦苦闘された方は少いと思う。太平洋戦争中は講師、助教授として苦労され、敗戦後は新学制移行とともに文学部に仏文学専攻が創設されるにあたり、佐藤正彰主任教授を助けて奔走されたのは周知の事実である。その後も学部内の役職を超人的に遂行され、昭和四二年六月から四四年五月まで文学科長、四三年二月から評議員、文学科長の任期が終わるとすぐ四四年六月から文学部長、その任期中に学長に選ばれ、四九年三月から五五年五月まで激職につかれた。この時期は「大学紛争」の時期であって動乱の極致にあった。五四年からは大学基準協会、文部省大学設置審議会の委員、評議員、五三年から理事と学外の要職も占められた。

しかし、ここでは私はこうした学内史の事実ではなくて、先生との二回の旅を中心に、先生の知られざる人柄にふれてみたい。

第一回は一九六一年五月から六二年一月までの先生の在外研究員としてのフランス滞在と、二回目は一九八四年三月一六日から三一日までの「明治大学アフリカ訪問団」団長としてセネガル、ケニア、エジプトを訪問されたときである。

先生がパリへ来られたのは五〇歳のときであった。まだ日本人が珍らしく、「ヴェトナム人か、中国人か」といつも訊ねられたものである。半年間は毎日のようにお会いしていた。奥様思い、子煩悩で、二人のお嬢さんの話をいつも聞かされた。パリでの第一の日課が毎週水曜日にお宅へ手紙を出すことであったことによく表れている。御専門のヴィクトル・ユゴーの亡命地であったガーンジー島、ジャージー島をはじめ、旅では同室で遅くまでしゃべっていて隣室からどなられたこともあった。最も印象深いのは当時の仲間四名でのブルターニュ、ノルマンディーめぐりであった。「田舎は良いなあー」と口ぐせのようにおっしゃる先生は至極御満悦であったし、サン＝マロ、モン・サン＝ミシェルは殊の他御気に召したようで、「こんな楽しい旅は初めてだ！」を繰返された。ところが、昨年のこと、奥様から先生のフランス滞在中の日記帳が見つかって、小生の名が瀬出するから読んでみないかと大学ノートを二冊渡された。先生の思索の跡を辿る意味でも、私の青春の貴重な一時期を再体験する意味でも興味をおぼえて拝読した。四〇年近い昔のことで忘れてしまっていたことが思い出されたし、当時の先生の心意気が偲ばれて有難かったが、問題のブルターニュ、ノルマンディー旅行の記述にふれて驚いた。旅からパリへ帰っても日本からの手紙が届いていなかっので、旅の楽しさも吹っとんでしまった、と片づけられていた。

また、先生が日記をつけられていたことも意外であった。痛飲されては取組み合いも辞さない、というイメージが知れ渡っていた先生が、あの紛争のさなかも一日も欠かさず日記をつけておられたのは驚きである。感激家でこまやかな神経の持主の先生が心の葛藤を日記にぶつけておられたことは想像に難くない。

「明治大学アフリカ訪問団」は一九八四年三月、菊田幸一法学部教授、江波戸昭商学部教授と小生を率いて三ケ国を訪問されたものであった。交流を深めつつあったダカール大学との学術交流協定の交渉が主な目的と私は思いこんでいて、通訳という肉体労働で貢献したつもりでいたが、当時の本学の事情はそんなに生やさしいものでなかったことが何年も後になってからわかった。もっと深く事情を察しておられた筈の先生の誠意あふれる態

度には今思い出しても敬服する。二〇歳も下の連中とグループ旅行をするのは肉体的にも精神的にも楽ではなかった筈で、セネガル特有の黄砂と疲れで、ケニア大使館では日本人の医師の診察を受けられたほどのがんばりようであった。ダカール大学との協定が実現していないことは先生の唯一の心残りであろう。

しかし、政治家よりも詩人、哲学者として世界に知られるセネガル初代大統領サンゴール氏に名誉博士号を贈られたのは先生であり、そのときの記念講演会「ネグリチュードとヒューマニズム」(「世界」一九七九年七月号に掲載)は大きな反響を呼んだ。このときの大統領の署名本の寄贈がきっかけとなって、「明治大学アフリカ文庫」が生まれた。現在では日本有数のアフリカ文庫として本学が世に誇れるものとなっている。一九九四年三月にその目録が出版され、病床の先生のもとにお届けできたのがせめての慰めであった。

世評とはうらはらに先生は家庭思いで、几帳面な方であった。それだけにどの仕事にも全身全霊を打ちこまれた。その精華は明治大学の歴史に滲み出ている。